

式 辞

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。本学に入学した皆さんを心より歓迎します。ご父母、保護者、ご家族の皆さまにおかれましては、誠におめでとうございます。

本日は、美浜・半田キャンパスの各教室に大学院・学部・学科・専攻・専修毎に新入生の皆さんに参集いただき、オンラインで結ぶ形ではありますが、入学をお祝いする式典が挙行できることを大変喜ばしく思っています。来賓の皆様、ご父母・保護者・ご家族の皆様、在学生の皆さんには、会場への参加はご遠慮いただき、インターネット配信を通じてこの式典をご覧いただいています。このような開催方法となりましたことにご理解・ご協力をいただきました関係の皆さまにこの場を借りて感謝申し上げます。

昨年の3月頃より現在に至るまで新型コロナウイルス感染症の蔓延が続いていることにより、皆さんは感染防止に留意しながらの学校生活や日常の暮らしにおいて、大変な困難や不安の多い1年間を過ごされたと思います。また、通信課程の大学院に入学された皆さんの多くは、コロナ禍におけるエッセンシャルワーカーとして大切な業務を担われ、大変な苦労があったと思います。そのような困難や苦労がある中でも、真摯に受験に取り組まれたことにより、本日入学式を迎えられた皆さんの努力を称えたいと思います。

本日ご入学された皆さんに歓迎と激励の意味を込めて、本学でこれから学びを進められる上で大切にしたいことを、お祝いの言葉として贈りたいと思います。

本学は、1953年に中部社会事業短期大学として開学し今年で68年目を迎えます。開学4年後の1957年に4年制の日本福祉大学を開設し、日本で最初の社会福祉学部1学部でスタートしましたが、その後学部・大学院を増設し、今年4月から新たに設置した大学院スポーツ科学研究科を含めて、現在は8学部10学科6大学院研究科を擁するふくしの総合大学となりました。

68年前に本学を開学された学園創立者の鈴木修学先生は、建学の精神としてこの大学で学ぶ人への熱い思いと期待を記されていますので、その一部を新入生の皆さんにご紹介したいと思います。

「この悩める時代の苦難に身をもって当たり、大慈悲心、大友愛心を身に負うて、社会の革新と進歩のために挺身する志の人を、この大学を中心として輩出させたいのであります。それは単なる学究ではなく、また、自己保身栄達のみならず、汲々たる気風ではなく、人類愛の精神に燃えて立ち上がる学風が、本大学に満ち溢れたいものであります。」

というものです。

鈴木修学先生は、昭和初期から戦後にかけてハンセン病者や戦災孤児など、社会的に一番弱い人々の救済と支援に携わられました。すべての人の命を大切に、しあわせな暮らしの実現を願い、自らの命をかけて行動されたのです。その活動を深める中で、人々の支援に専門的に携わる人を養成する必要性を強く感じられて、この建学の精神を創案し、本学を開学されたのです。鈴木修学先生の人となりご業績は、本日大学後援会から皆さんにプレゼントされた本『日本の福祉を築いたお坊さん』（星野貞一郎著、中央法規）に詳しく書かれていますのでぜひ読んで下さい。

建学の精神が打ち立てられた時代から70年近くが経過し、日本の社会は大きく発展してきたと思われませんが、その一方で経済的な格差が広がり、生活困窮などによりしあわせに暮らすことができない人たちが少なからずいるのが現状です。とくに、超少子高齢社会が進展する中、認知症高齢者の増加、孤立する単身世帯、子どもの貧困など、支援を要する人を地域でお互いに支え合う地域共生社会づくりが求められています。また、新型コロナウイルス感染症の終息にはまだまだ時間がかかるとともに、今後も新たな感染症蔓延など私たちの日常生活を脅かす事態が生じることも考えられます。

このような社会における課題解決に取り組み、すべての人のしあわせを実現していく上では、8学部6大学院研究科を通じて幅広い分野から人々の命と暮らしを支える専門職を輩出する本学の役割は、ますます重要になると思います。皆さんが入学したそれぞれの研究科・学部・学科において専門的な知識・技術を身に付けることで、人々を支えることができる貴重な存在になれることを大いに期待しています。

本学では、各学部・学科の学びを通じて、課題解決に向けて創造的に実践する力を身に付けることを重視し、地域と連携した教育に力を入れています。全学共通科目および各学部独自科目として設置している、地域について学ぶ科目や地域での実践を通して学ぶ科目を一定数以上修得し、その科目を通じて学んだことの振り返りを実施した学生に、卒業時に「ふくし・マイスター」の称号を授与しています。3年前の卒業生から称号の授与をはじめましたが、毎年通学学部卒業生の半数以上を「ふくし・マイスター」として輩出しています。新入生の皆さんには、地域と連携した教育に積極的に取り組み、卒業時にふくし・マイスターの称号を得て、卒業後の職場や居住する地域において人々を支える活動を実践し、地域共生社会の実現に貢献して欲しいと思います。

もう一つ、新入生の皆さんに伝えておきたいことがあります。それは、自分のいのちはもとより、周りにいるすべての人のいのちを大切にすることについてです。なぜ、そのようなことを言うのかについて、お話しをします。

今から36年前の1985年1月28日、体育実技の授業としてバスでスキー実習に向かう途中、長野県犀川のダム湖にバスが転落する事故が起きました。この事故により、本学学生22人、引率の教員1人、バス乗務員2人、合計25人もの尊い命が奪われたのです。美浜キャンパスの正門からの坂道沿いに、23本の桜の木が植えられています。この桜は、バス事故で亡くなられた22人の1年生と引率の教員1人を慰霊するために植えられたもので、私たちは「友愛の桜」と呼んでいます。大学に入学して1年足らずで、事故により命を奪われこの世を去らなければならなかった無念は、計り知れないものです。残されたご遺族の悲しみは、36年経った今も癒えることはありません。私たちはこの事故を決して忘れないために、毎年事故のあった1月28日に現地での慰霊祭とキャンパスでの追悼集会を開いています。また、10月に「安全の日」を設けて、事故や災害から命を守る上での啓発活動に取り組んでいます。

新入生の皆さんには、過去に本学で起こった悲しいできごとを知りそこから学びを得るとともに、この大学での学生生活において、自分の命を大切にすることはもとより、周りの人たちの命を支える活動に積極的に取り組んで欲しいと思います。

本学には、多くのサークル活動、ボランティア活動がありますので、それらの活動を通じて、人々のいのちや暮らしを支える活動に、大学生として貢献することができます。また、

10年前に起きた東日本大震災を契機に立ち上げた「災害ボランティアセンター」という学生と教職員が一体となって活動する組織があります。東日本大震災の後にも、熊本地震などの地震災害や豪雨災害など、近年大きな災害が多発しており、災害ボランティアセンターの学生が被災地を訪れて、被災者支援活動を継続的に行っています。この活動を通じて、いのちや暮らしを支える実践を経験することは、他では得難い貴重な学びとなりますので、新入生の皆さんにも積極的に参加して欲しいと思います。

おわりになりますが、新入生の皆さんが本学での学びと、学生生活における様々な活動への参加を通して、多くの人との関わりと経験を積み重ねることで、本学入学に際して抱かれています夢や希望を実現されることを願い、お祝いの言葉といたします。

あらためまして、本日はご入学おめでとうございます。

2021年4月1日

日本福祉大学学長 児玉善郎